運輸政策研究所 第35回 研究報告会

世界遺産を活用した観光振興のあり方に関する研究

小室充弘
KOMURO, Mitsuhiro
運輸政策研究機構運輸政策研究所主任研究員

1――はじめに

現在，我が国では観光立国の実現が重要な政策課題となっているが，観光振興のためには地域固有の観光資源を活用した魅力ある観光地づくりが不可欠である．こうした観光資源として，ユネスコの世界遺産[注1)]が大きく注目されるようになっている．

世界遺産登録は観光振興を目的とするものではないが，観光地としての知名度やブランド価値が向上し，観光客の増加につながることが期待されているのである．確かに富士山など最近の事例を見る限り，世界遺産登録の前後には観光客数が増加している[注2)]．

しかしながら，長期的な観点に立った場合，世界遺産登録が観光振興を通じた地域の活性化に本当に寄与しているかについては疑問な点が存在する．具体的には①世界遺産登録後，長期にわたって安定した観光需要が確保されているのか，②世界遺産には国際的なブランド価値があるとされるが，インバウンド観光はどの程度活性化したのか，③世界遺産所在地は，経済面，社会文化面でどのようなメリットを享受したかについての検証が必要である．

また，世界遺産登録の本来の目的は遺産保全にあるが，観光客の増加によって遺産保全に支障が生じていないか懸念されるところである．

本研究では，以上の問題意識を踏まえ

①世界遺産と観光の関係の明確化
- 登録後の長期的な観光動向，観光が地域に及ぼしたプラス・マイナスの影響の把握分析
- 地方自治体等の取組み，問題意識の把握分析
- 観光客，旅行業者，有識者等の意見・要望の聴取

②世界遺産観光に係る課題事項の抽出

③世界遺産を活用した持続的な観光振興のあり方に関する検討，提言の取りまとめ

を行ものである．

2――世界遺産の概説

2.1 世界遺産とは何か

世界遺産は，世界遺産条約に基づきユネスコの世界遺産リストに登録された人類が共有すべき「顕著な普遍的価値」を持つ物件で，文化遺産，自然遺産，複合遺産に区分される．

本年5月27日現在で130ヶ国，981件の遺産が登録されており，ほぼ半数が欧州に存在する．

世界遺産保有国は6年毎に遺産の保全状況をユネスコの世界遺産委員会に報告し，再審査を受けなければならない．

世界遺産としての価値を揺るがす脅威にさらされている場合には危機遺産リストに掲載され，更に遺産としての価値が失われたと判断されれば登録抹消となる．

2.2 世界遺産と観光の関係

世界遺産は観光振興を直接の目的とするものではないが，登録件数の多い国は概して外国人旅行者数受入数も多く，世界遺産大国は同時に観光大国とも言える状況にある（表―1）．しかしながら，観光事業は自然劣化，自然災害，戦争や内戦，経済開発，都市開発等と並んで世界遺産にとって脅威となり得るもので，過去にはガラパゴス諸島が観光開発による環境悪化等の理由で危機遺産リストに掲載されたこともある．

3――世界遺産と観光の関係の明確化

3.1 世界遺産の類型化と研究対象の絞り込み

本年5月27日現在で日本には17件の世界遺産（自然遺産4件，文化遺産13件）が存在する（表―2）．

■表―1　世界遺産登録件数と外国人旅行者受入数

	登録件数（2014年5月）	外国人旅行者受入数（2012年）
1位	イタリア（49件）	4,636万人（5位）
2位	中　　国（45件）	5,773万人（3位）
3位	スペイン（44件）	5,770万人（4位）
4位	フランス（38件）	8,302万人（1位）
	ド イ ツ（38件）	3,041万人（7位）

※米国は登録件数8位（21件）だが，外国人旅行者数2位（6,697万人）．世界遺産大国ではないが国立公園大国．
出典：ユネスコ資料，日本政府観光局資料等より作成

■表―2　日本の世界遺産一覧

●自然遺産 屋久島，白神山地，知床，小笠原諸島
●文化遺産 法隆寺，姫路城，古都京都の文化財，白川郷・五箇山，厳島神社，原爆ドーム，古都奈良の文化財，日光社寺，琉球グスク群，紀伊山地の霊場と参詣道，石見銀山，平泉，富士山

これら遺産には，以前からの有名な観光地もあれば，登録前は知名度の低かった所もあり，一律に扱うのは適切ではない．このため，先行分析事例[1)]に従い登録後の観光客数の推移により3タイプに類型化する[注3)]．

A：登録により観光客が急増（図―1，2）

・屋久島，白神山地，白川郷，琉球グスク群，紀伊山地の霊場と参詣道，石見銀山遺跡とその文化的景観

・登録を契機に全国的な観光地として確立

B：登録後，概ね観光客が堅調に推移又は登録前は減少していたが登録によって下げ止まり（図―1）

・古都京都，古都奈良，日光社寺

・以前より全国的に著名な観光地で遺産が広域に点在

C：登録後も観光客が減少（図―1，2）

・法隆寺，姫路城，厳島神社，原爆ドーム，知床

・以前より全国的に著名な観光地で，知床を除き，大都市又はその周辺部に単独で存在

その上で，本研究の目的とも照らし合わせ，世界遺産登録によって全国的な観光地になったタイプAの世界遺産を重点研究対象と位置付ける．ただし，琉球グスク群は全国有数のリゾート地である沖縄本島に所在することから除外する．

3.2 文献調査の結果

重点研究対象5件（自然遺産：屋久島，白神山地．文化遺産：白川郷，紀伊山地，石見銀山）の登録後の観光動向について既存文献により調査を行った．

①長期的な観光客数の推移

いずれの遺産も登録を契機に観光客数が急増したが，長期的には横ばいから減少傾向に転じている（表―3）．

その理由としては，金融不況や東日本大震災の影響，地域によっては気象災害や交通事情等に起因するとされているが，世界遺産登録効果の減退と言った要因が絡んでいないか検証が求められるところである．

②観光の実態

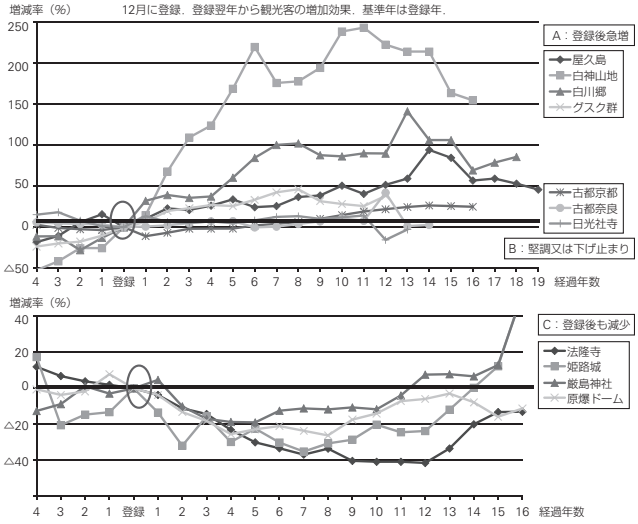
観光客の属性，旅行形態，活動内容等については，データが全般的に不足している．

把握できた範囲で述べると，観光客は特定のエリアに集中する傾向が見られる（例えば，屋久島－縄文杉．石見銀山－大森地区）．

また，屋久島や紀伊山地では宿泊客の割合が高い（各7割，3割）のに対し，白川郷や石見銀山（大森）では，2～3時間しか滞在しない通過型の観光客が主体である．

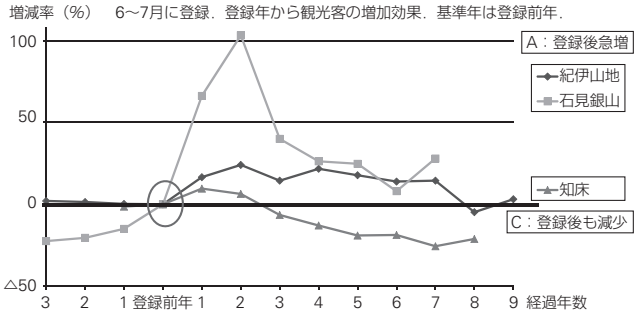
③外国人観光客の動向

いずれもゴールデンルート上に位置しておらず，外国人観光客数は少ない（平成24又は25年の数値で白川郷約15万人，紀伊山地（和歌山県）約8万人，屋久島（宿泊客）約2千人，石見銀山（大森）約1,600人）．



※屋久島町資料，青森県資料，白川村資料，沖縄県資料，京都市資料，奈良市資料，栃木県資料，斑鳩町資料，姫路市資料，広島県資料，広島市資料に基づき推計．

■図―1　登録後の観光客の増加率（平成5～12年登録）



※和歌山県資料，大田市資料，北海道資料に基づき推計．

■図―2　登録後の観光客の増加率（平成16～19年登録）

■表―3　登録後の観光客数の推移

単位：万人

	平成4	平成5	平成6	平成7	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24
屋久島	24	21	23	26	32	29	32	33	41	39	33	33	32	－
白神山地	18	21	24	36	72	73	68	67	67	56	54	－	－	－
白川郷	68	59	67	77	156	145	144	147	146	186	173	159	131	138
紀伊山地	－	－	－	－	935	1,090	1,160	1,070	1,138	1,101	1,065	1,070	890	964
石見銀山	－	－	－	－	31	32	34	40	74	81	56	51	50	43

※屋久島町資料，青森県資料，白川村資料，和歌山県資料，大田市資料により作成．○は登録年．

その一方で，屋久島，白川郷，紀伊山地（高野山，熊野三山，熊野参詣道）はミシュランの三ツ星に登録されており，高野山や屋久島では欧米系の個人客の割合が高いとの報告もある．

④観光が地域に及ぼしたプラス面の影響

プラス面の影響を具体的・定量的に分析した資料は少ないが，屋久島の事例について紹介する．まず，経済面では，人口減少や高齢化の抑制，就業人口や商業関係の指標（商店数，商品販売額等）の現状維持，観光関係事業者の増加等の効果がみられる（表―4）．

また，社会文化面でも，島民の誇りの増加や山岳信仰「岳参り」の再興などが報告されている．

⑤観光が地域に及ぼしたマイナスの影響

世界遺産登録後の観光客増加によって生じたシリアスな問題と地元における対応状況を紹介する．

○屋久島

縄文杉登山者等の増加により，杉根の踏み荒らし等による生態系への影響，し尿及びゴミ処理等の問題が深刻化している．

これに対し，平成23年6月には縄文杉登山者等の人数制限などに関する条例案が屋久島町議会に提出されたが地域経済（観光）に与える影響が大きい等の理由で否決され，その後は環境保全財源の観光客からの徴収（入島税等）についての検討が進められている．

○白川郷

観光車両の増加による交通渋滞の発生，駐車場の設置等による景観の悪化などの問題が発生し，平成24年にはユネスコの諮問機関（日本イコモス国内委員会）から改善を求めるコメントが出されている．これに対し，観光車両（観光バス，乗用車）の乗入規制，合掌集落地区内の駐車場の撤廃等の措置が順次実施されているところである．

○石見銀山

白川郷を教訓にして世界遺産登録時にパーク＆ライド方式を導入した．

・大森地区外の駐車場と大森地区―路線バスで移動
・大森地区内（鉱山町と龍源寺間歩）―路線バスで移動

しかしながら，観光需要に応じて地区内路線バスの増便・増発を行ったところ，環境悪化，騒音，振動，交通安全等に係る問題が発生した．結局，大森地区の住民の要望を踏まえ，登録翌年には大森地区内の路線バスは廃止され，同地区内の移動は徒歩又は自転車によることとなった（歩く観光への転換）．

これにより，観光と遺産保全・住環境との調和は図られたが，観光客は減少に転じる結果となった．

※3．2節の参考文献については2)―18）を参照．

■表―4　観光事業者等の変化

		世界遺産登録前	世界遺産登録後	増加の程度
宿泊施設（H元年と24年）	施設数	49軒	137軒	2～2.8倍
	収容力	1,600人	3,278人	
観光バス（H4年と24年）	保有台数	11台	39台	3～4倍
レンタカー（H4年と24年）	事業者数	5社	16社	3～4倍
	営業台数	107台	458台	
観光関係就業者数（H元年頃と24年）	エコツアーガイド数	約20名	164名	8倍

出典：屋久島観光協会資料より

4――地方自治体等へのヒアリング

文献によって得られる情報には制約があることから，世界遺産所在地の地方自治体等へのヒアリングを行い，

○登録後の観光動向の詳細
○観光振興に向けた取組みの実施状況や問題意識

等を確認することが必要である．

このため，重点研究対象の中から石見銀山（文化遺産，短期通過型）と屋久島（自然遺産，宿泊滞在型）の2件を選定して，優先的にヒアリングを実施した．

4.1 石見銀山

（世界遺産の概要）（図―3）

・平成19年に登録．島根県大田市に所在．
・「銀鉱山跡と鉱山町」（大森地区），「銀の積出港と港町」（温泉津地区，仁摩地区）及び「これらをつなぐ街道」で構成される．

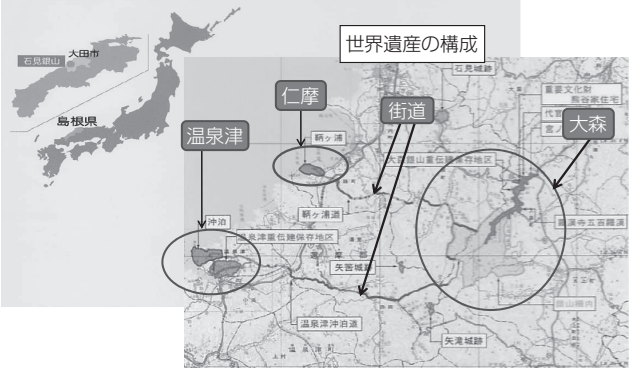
（ヒアリングの実施状況）

・平成26年3～4月に，島根県と大田市に対し各2回，大田市観光協会に対して1回ヒアリングを実施した．

（ヒアリングの概要）

○登録後の観光動向

・観光客の属性としては，年代は30～50代が多く，居住地は中国地方のほか首都圏，関西圏を中心に全国に及んでいるが，リピーターは1割程度にとどまっている．
・観光客の意見として，世界遺産の構成要素の評価は高いが，アクセス交通や域内交通手段の評価は低い．



■図―3　世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」

・観光客の減少は地区内路線バスの廃止によるものであり（特に，地区内の移動に時間がかかるとの理由で観光バスによる団体ツアーが急減），石見銀山の観光地としての魅力は高いと認識している．

○観光振興に向けた取組み

・大田市が主体で島根県が支援する体制である．

・観光振興の方向性は次の2点に集約される．一点目は世界遺産の価値の伝達に重点を置き，観光客の質の向上を目指すことである．二点目は観光スポットのネットワーク化であるが，これには「石見銀山（大森地区）と大田市内の他の観光スポットの連携強化」及び「大田市と周辺地域との広域的なネットワークの構築（例えば，松江･出雲大社からの誘客，広島の世界遺産との連携）」の二つが含まれている（図―4）．

・個別具体の取組みとしては，まず観光客の誘致面では市観光協会が中心となり3カ年計画で団体客の誘致強化に取り組んでいるが，個人客はターゲットの絞り込みが未だなされていない．次に，観光客の受入面では，地区内の快適な移動の確保（レンタサイクル，ベロタクシーの充実）や案内機能の充実（石見銀山ガイド，音声ガイド機の貸出）等の取組みが進められている．

○観光と遺産保全との調和に向けた取組み

・観光客の適正規模について明確な基準を示すのは難しいが，平成19～20年（観光客数70～80万人）はオーバーユースな状況であったと言える．現状は50万人程度であるが，無理してピークの水準に戻すのではなく，滞在期間の延長による消費拡大を図る方がよいと考えている．

・世界遺産保全財源としては官民の資金拠出による石見銀山基金が設けられており観光客への課金は考えていない．なお，観光客が石見銀山で通用する電子マネーを購入すると売上金の一部が基金に寄付される仕組みが導入されている．

4.2 屋久島

（世界遺産の概要）（図―5）

・平成5年に登録．鹿児島県熊毛郡屋久島町に所在．

・屋久島の約2割が世界遺産．

（ヒアリングの実施状況）

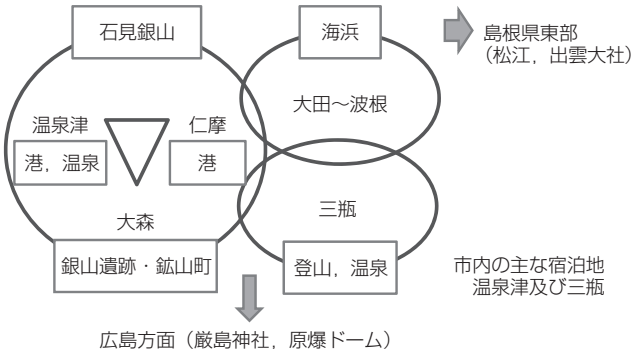
・平成26年4月に鹿児島県，環境省自然保護官事務所に各1回ヒアリングを実施した．

（ヒアリングの概要）

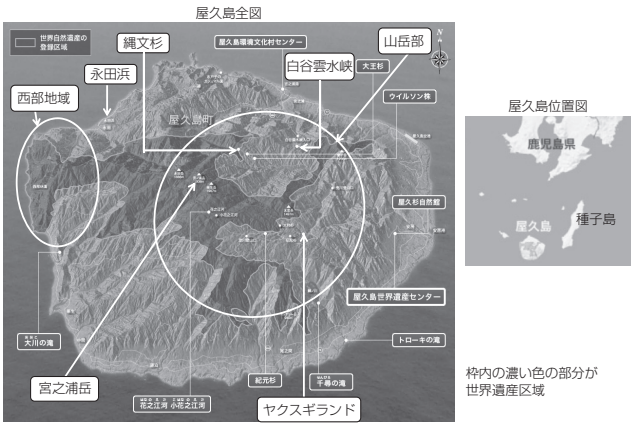
○登録後の観光動向

・登録後は知名度の向上と縄文杉登山人気により観光客は20万人強から30万人強に増加した．

・平成19～20年には40万人規模に急増したが，高速船2社の運賃値下げ（現在は統合）や皆既日食観察に起因する特異値ではないかと考えている．



■図―4　観光スポットのネットワーク化



■図―5　世界遺産「屋久島」

・平成21年以降は30万人台前半で推移しているが，これは登録後の平年ベースに戻ったと言うことであり，世界遺産ブームの終了による減少とは認識していない．

○縄文杉登山者の特性

・登山者の大半は普段山登りをしない人である．一度，縄文杉を訪問すれば満足するといったタイプが多いようなので，リピーターの確保が難しい面もある．

○観光振興に向けた取組み，環境保全との調和

・屋久島観光は売手市場であり，特段戦略的な取組みを講じなくても一定の需要の確保が可能であった．

・他方，観光が環境保全に及ぼす問題は深刻化しており，屋久島町では当面の対応として保全財源の観光客等からの徴収を検討している．

・離島としての受入能力の制約や環境への負荷を勘案すると，観光客数の増加よりも滞在期間の延長による経済効果拡大を図る方が望ましいように考えられる．

5――まとめ

石見銀山，屋久島とも観光客数は登録後のピーク時に比べ減少しているが，地元自治体等には，世界遺産の観光資源としての

魅力が低下しているとの認識はない．こうした認識を一概に否定はすることはできないが，マーケティングの通説[19]として観光地には「導入→発展→成熟→衰退」のライフサイクルが存在するとされており（図―6），この説に従うと，観光客の減少傾向への転換は成熟期から衰退期に向かう兆候であるとも考えられる[注4]．

このため，地元自治体等においては，世界遺産のネームバリューに依存するだけではなく，観光客の動向・ニーズを的確に把握した上で，世界遺産を核とする戦略的な観光振興策を講じることにより，観光地としての継続的な発展（長期・安定的な観光需要の確保＝再生）を図っていくことが期待されるところである．

また，石見銀山，屋久島とも観光と遺産保全との関係でジレンマを抱えているが，今後，観光地としての発展を図る上で，世界遺産の保全には最大限の配慮が求められる．一般の観光地でも観光と環境の調和，観光資源保全への配慮は必要とされるが，世界遺産の保全は条約に基づき遺産保有国に課せられた責務であり，その保全には格段に厳重な対処が要求されることになる．

最後に，本研究は緒についたばかりであるが，現時点までの成果を踏まえ，世界遺産観光に関する課題事項と対応策の方向性のイメージを整理したので紹介する．

課題1　長期・安定的な観光需要の確保

「ファーストカマーの獲得」と「リピーターの育成」の双方ついて戦略的な取組みが必要．

○ファーストカマーの獲得

・具体的なターゲットを設定した誘致戦略等

○リピーターの育成

・満足度の向上，観光メニューの多様化等

※インバウンドも視野に入れる

課題2　観光振興と世界遺産保全との調和

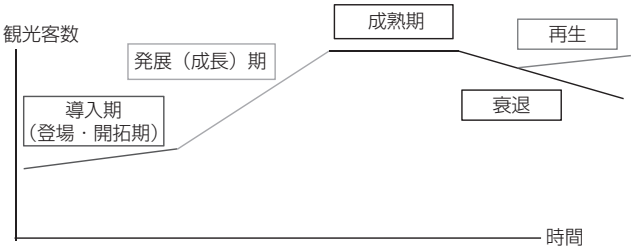
○観光需要の抑制

・人数制限/交通規制/観光客への課金等
　今後は特に事前の対応が重要

○遺産に過度の負担がかからない観光形態への誘導

・観光需要の時期的・地域的な分散等

○遺産保全財源の観光客からの徴収，マナーの向上



出典：観光地ライフサイクルに関する資料（ジョン・トライブ著［2007］，『観光経営戦略』，センゲージラーニング社）を参考にして作成

■図―6　観光地のライフサイクル

6――おわりに

本研究は，重点研究対象5件の文献調査に続き，そのうち2件（石見銀山，屋久島）に係る地方自治体等ヒアリングにようやく着手したところである．

今後は，上記2件について追加ヒアリングを行うほか必要に応じて他の3件（白川郷，紀伊山地霊場と参詣道，白神山地）についても地方自治体等ヒアリングを実施する．

さらに，受入側のヒアリングだけではなく，観光客や一般国民（潜在的な旅行者）の意識調査，旅行業界へのヒアリング，有識者へのインタビュー，海外の世界遺産の事例調査等により幅広く情報を招集し，世界遺産観光の課題事項の抽出と持続的な観光振興のあり方の検討につなげて参りたい．

注

注1）本年5月27日時点で17件．その後，富岡製糸場の登録により18件．他に世界遺産候補として12件が暫定リストに掲載されている．

注2）富士山：登録直後の登山者，美保の松原来訪者は前年比で3割超，2割の増加（各昨年7月の数値，6月末の週末の数値）[20),21)]．
富岡製糸場：今年のGWの来訪者は前年の3倍[22)]．

注3）平泉，小笠原及び富士山は登録後の経過年数が短いことから除外する．

注4）通常は数十年の周期とされるが，世界遺産は登録後の急増，ブームの終了による急減と言った具合に周期が短くなるのではないかと予想される．

参考文献

1）新井直樹［2008.9］，“世界遺産登録と持続可能な観光地づくりに関する一考察”，「地域政策研究」（高崎経済大学地域政策学会），第11巻，第2号．
2）鹿児島県屋久島町，「統計やくしま」（2012年版ほか）．
3）鹿児島県環境林務部自然保護課［2012.10.23］，「世界自然遺産・屋久島の20年」．
4）屋久島町エコツーリズム推進協議会［2010.11］，「屋久島エコツーリズム推進全体構想（素案）」．
5）青森県，「青森県観光入込客統計調査」（2012年版ほか）．
6）岐阜県白川村役場，「白川村の観光統計」（オンライン），http://shirakawa-go.org/
7）白川村役場［2011］，「白川村第六次総合計画～基本計画編（前期）～」．
8）中部産業・活性化センター［2010.3］，「電気自動車などを活用した新たな観光資源開発に関する調査研究－世界遺産白川郷および周辺地域を対象としたモデル事業－」．
9）和歌山県，和歌山県観光客動態調査報告書（2012年版ほか）．
10）和歌山県世界遺産センター，（オンライン），http://www.sekaiisan-wakayama.jp/
11）総務省［2010］，「和歌山県田辺市「持続的な観光地づくり」」．
12）久保明代［2012］，“「観光立国」に資する欧米系外国人の観光行動論－大阪市，高野町，田辺市の事例を中心に－”，「創造都市研究e」．
13）島根県大田市観光サイト，（オンライン），http://www.visit-ohda.jp/．
14）島根県大田市，「統計おおだ」（2012年版ほか）．
15）石見銀山協働会議［2006.10］，「石見銀山行動計画」．
16）大田市［2009.6］，「大田市新観光計画」．
17）内閣府沖縄総合事務局［2013.3］，“県外世界遺産参考事例調査”，「沖縄における観光振興に向けた世界遺産活用戦略検討調査」．
18）静岡県富士宮市［2013.3］，“国内の世界遺産の現状と課題”，「富士山世界文化遺産富士宮市行動計画（案）」．
19）ジョン・トライブ［2007］，『観光経営戦略』，センゲージラーニング．
20）日本経済新聞（2013.8.1）．
21）日本経済新聞（2013.7.10）．
22）産経新聞（2014.5.6）．